

Happy Universal College –HUC– (所在地：兵庫県神戸市長田区)

事業名

教室から「まち」へ。障害の有無を超えた多世代共生型学びの場「HUC」第2章～「行きつけの場（サードプレイス）」から、役割が生まれる「第4の場所」への進化～

事業の趣旨・目的

課題：特別支援学校卒業後の障害者が、継続的に学び、社会と繋がる場が圧倒的に不足している。

・目的：初年度に「まち」で見つけた「行きつけの場」を、ただのお客様として過ごす場から、参加者自身が役割を持ち、多様な人々と共創する**「フォースプレイス（第4の場所）」へと進化させる。

・狙い：障害者の生涯学習を起点に、日頃から食を共にし、顔の見える関係性を築くことで、結果として「究極の日常防災（ケアインフラ）」**が街に根付く持続可能な学びのモデルを構築する。

事業実施体制・連携先

株式会社Happy：全体統括・企画運営・神戸市看護大学 神原咲子教授：日常防災・ケアインフラの視点からの監修・神戸市長田区：登録有形文化財や地域資源の活用連携・産業遺産の専門家等：歴史学習の講師

主な対象

すべて（障害の有無・年齢を問わない0～100歳の多世代

活動分野

学習 / その他（防災・地域コミュニティ

事業内容

神戸の歴史・自然・食を教材とし、「山・町・海」の拠点と連動した生きた生涯学習プログラムを実施。

①【山のキャンパス：KARASUHARA EDEN（登録有形文化財：烏原貯水池）】・歴史の「語り部」育成：専門家から水インフラの歴史を学び、1年後には参加者自身が神戸の文化を伝える「語り部」としての役割を担う。・プラネタリーヘルスケア：自然環境でのアートセラピー等を通じた心身のケア。

②【海のキャンパス：PORT KOMA（登録有形文化財：旧駒ヶ林保育所）】・「食とケアの担い手」育成：ジェラート工房や給食設備を活用し、参加者が食の提供やカフェ運営に関わる体験学習。支援される側から「価値を提供する側」へ回る。

③【町のキャンパス：行きつけの場の継続開拓】・WAGOMUクライミングジム等、長田区を中心とした市内施設での活動も継続し、日常的な「顔の見える関係性」を街全体に増やす。

事業終了後の目指す方向性

【個人の変容】障害のある参加者が、地域の中で「歴史の語り部」や「食の担い手」といった新しい役割（出番）を獲得し、学ぶ喜びと自己肯定感を得る。

【社会の変容】HUCの学びの場が地域の「フォースプレイス」となり、マニュアルに頼らない「顔の見える関係性」による日常的な防災力（共助ネットワーク）が向上する。

【モデル化】まちの資源活用×インクルーシブ教育のロールモデル化。

その他

教室から「まち」へ。多世代で見つける行きつけの場。学びを通じて日常の登場人物を増やす。

HUCは、決まった教室を持たず「まち」のあらゆる場をキャンパスとするコミュニティです。0歳から100歳までが楽しみながらごちゃ混ぜに学び、支援者や当事者の境界を超えた「顔の見える関係」を築きます。学びを通じて日常の「行きつけの場」や「登場人物」を増やすことが、有事の際のセーフティネットとなり、年齢や障害の有無を問わず、人生の選択肢をさらに広げるきっかけを作ります。HUC（ハッピー・ユニバーサル・カレッジ）は、決まった教室を持たず「まち」のあらゆる場をキャンパスとするコミュニティです。0歳から100歳までが楽しみながらごちゃ混ぜに学び、支援者や当事者の境界を超えた「顔の見える関係」を築きます。学びを通じて日常の「行きつけの場」や「登場人物」を増やすことが、有事の際のセーフティネットとなり、年齢や障害の有無を問わず、人生の選択肢をさらに広げるきっかけを作ります。